

教育を考える

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：教育は人間を社会（共同体）の一員として成長させるいとなみである。知識・技能や文化の伝達もそのために行われる。だが、教育は人間を既存社会へと適応させるだけでなく、これを批判的にとらえ、社会のあり方を変える力を育む面を持つ。適応と変革のダイナミズムこそ、教育の本質だといってよい。

学校においても、子どもたちは教師による学習の内容や方法についての指導にただ従っているのではない。自身の解釈や取捨選択を重ね、やがて教師がいなくても、自身で必要な学びを行えるようになっていく。一方、優れた教師は、教育内容や教育方法の専門家であるだけでなく、子どもの感情や願いを理解しようと努め、家庭や社会など子どもの背後にある問題にも目を向ける。教育が人間の学びと成長を支えるものとなるためには、そこには自由と信頼がなければならない。

授業では、このような教育を行うために、どのような工夫が行われてきたかを理解し、今後の課題について考えていく。教育問題、国内外の改革論議などを題材にしなが、教育と人間に関する考察を深めていきたい。

- 到達目標**：①自身の教育経験を対象化し、客観的にとらえることができる。
②教育の世界で蓄えられてきた〈人間を学ぶ主体として成長させるための智慧〉について、その意義や現代的課題を述べることができる。
③教育の世界の経験や問題から受けた示唆をもとに、デザインまたは看護についての自身の考えを深めていくことができる。

■**担当教員**：光本 滋

■**授業計画・内容**：授業は、おおむね3回をユニットとして、一つのテーマを深めていく。

第1～3回 わたくしたちが受けてきた教育はどのようなものだったか

ガイダンス／世代と教育経験／人間の発達と教育／教育の自由と権利

教育体験をふりかえり、わたくしたちの教育認識を対象化します。一人ひとりの体験は個別的であり、特殊なものかも知れませんが、他者との共通性もあります。それは何なのか、なぜ、いつからそうなったのか、そして、教育の意義と課題について考えます。

第4～6回 子どもの学びと大人の学び

人間が大人になるとはどういうことか／学校の学びと社会の中の学び／生涯学習の課題

教育は子どもだけのものではありません。子どもと大人の学び方の違いなぜ起こるのか、社会の中の学びと対比したときに見えてくる学校教育の特徴、人間の生涯にわたる発達と学習の課題について考えます。

第7～9回 教師の仕事を考える

子どもの苦悩と向き合う／子どもの学びと社会認識／教師の学びと成長

教師の仕事は教科を教えることだけではありません。教科教育を通じて、それ以外の場面で教師は何を考え行動してきたのか。そして、自らの社会的役割をどのように認識してきたのか考えます。

第10～12回 学校改革の課題を考える

親の教育要求と学校改革／学校づくりと子どもの参加／地域・社会の中の学校改革

学校が、親や地域住民など外部の人びとの要求とどのように向き合ってきたのか、向き合っていくべきなのか。学校が社会とかがわっていくこと、学校づくりと子どもの参加の教育的意義を考えます。

第13～15回 教育をデザインする／教育の現場から考える

わたくし自身自身が教育をデザイン（計画）する主体になる道筋について考えます。

実際の学校等に出向き、現場の経験と知恵から学びます。2015年年度は、北海道大学病院にある札幌市立幌北小学校ひまわり分校・札幌市立北辰中学校ひまわり分校を訪問しました。

■**教科書**：特定の教科書は用いず、プリント資料を配付する。

■**参考文献**：授業の中で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：小テスト・授業内レポート（70%）。ワークショップ（発表、課題・作品）（30%）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
小テスト・授業内レポート	30%	40%		各回のポイント理解	70%
授業態度					
発表			15%	検討の水準・構成の工夫	15%
課題・作品			15%	まとめ、わかりやすさ	15%
出席					
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：基本となる考え方を理解し、その適用の可能性や課題について、自身の言葉で考えることができるようになってほしいと思います。一方的な講義ではなく、受講者と教員との双方向的なやりとり、ディスカッション、グループワークなどの要素も取り入れます。受講者にも授業中に報告を求めることがあります。